

経済・財政再生アクション・プログラム 2016（骨子案）

1 改革初年度（2016 年度）におけるこれまでの取組状況と今後の取組等

〔1〕改革初年度（2016 年度）におけるこれまでの取組状況

- ・「公的サービスの産業化」、「インセンティブ改革」、「公共サービスのイノベーション」の歳出改革の取組
- ・「見える化」の徹底・拡大、行動変化を促す必要
- ・先進・優良事例の展開促進、更なる取組の必要性

〔2〕改革 2 年目における今後の取組

- ・全ての改革項目について、改革を具体化した工程表に沿い、着実に推進
- ・主要歳出分野毎における主な取組について整理
- ・国庫支出金のパフォーマンス指標の設定、活用等について具体化
- ・KPI の活用に加え、他の指標も整備・活用し、経済・財政効果を把握

2 主要分野毎の改革初年度におけるこれまでの取組と今後の取組

〔1〕社会保障分野

- （1）医療・介護提供体制の適正化
- （2）疾病予防・健康づくり、インセンティブ改革、公的サービスの産業化
- （3）負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化
- （4）薬価・調剤等の診療報酬及び医薬品等に係る改革
- （5）年金
- （6）生活保護等

〔2〕社会資本整備等

- （1）持続可能な都市構造への転換と公共施設のストックの適正化
- （2）社会資本整備の基本戦略

〔3〕地方行財政改革・分野横断的な取組

- （1）地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革
- （2）地方行財政の「見える化」
- （3）地方行政分野における改革
- （4）IT化と業務改革、行政改革等

[4] 文教・科学技術、外交、安全保障・防衛等

- (1) 少子化の進展を踏まえた教職員定数の見通しなど予算の効率化及びエビデンスに基づくPDCAサイクルの徹底
- (2) 国立大学・応用研究への民間資金の導入促進及び予算の質の向上・重点化
- (3) その他の分野

●工程表編

- －改革工程表

●参考資料

- －改革工程、KPIの進捗点検表
- －主要分野のKPI
- －主要分野の「見える化」事項